## 2025 年度 授業概要

科目	目名			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	病理学		授業の種類	講義	講師名				
授業	回数	8回	時間数	15時間	(1単位)	配当学年・時期	作業療法	士科2年		必修・選択	必修		
	〔授業の目的・ねらい〕 病理学をとおして、病気になった原因を探り、患者の身体に生じた変化を見極める。												
〔授業全体の内容の概要〕													
病理学総論は、退行性病変、循環障害、炎症、腫瘍など、疾病に共通する病変を学ぶ。													
〔講印	〔講師の実務経験〕												
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕													
		疾病の原因はどのようなもので、そのための組織にどのような変化を生じ、その結果どのような機能障害があらわれ、その機能回 復にどのような支援が必要か、また、支援に伴うリスクを知る。											
							とを生じ、そ¢	の結果どのよう	うな機能障害症	があらわれ、そ	の機能回		
						クを知る。	比を生じ、その 構義内容	の結果どのよう	うな機能障害が	があらわれ、そ	の機能回		
復にと回数		うな支援が				クを知る。		の結果どのよう	うな機能障害症	があらわれ、そ	・の機能回		
復にと 回数 1	ごのよう	うな支援だ				クを知る。		り結果どのよう	うな機能障害が	があらわれ、そ	の機能回		
復にと 回数 1	病理学病因論	うな支援だ				クを知る。		D結果どのよう	うな機能障害が	があらわれ、そ	一の機能回		
復にと 回数 1 2	病理学病因論	うな支援 <i>た</i> <u>*</u> * * とは				クを知る。		の結果どのよう	うな機能障害が	があらわれ、そ	一の機能回		
復にと 回数 1 2	病理学病のよう	かな支援が	が必要か、 		要に伴うリス	クを知る。		り結果どのよう	うな機能障害な	があらわれ、そ	一の機能回		
復にと 回数 1 2 3	病理学病因調整を	かな支援が	が必要か、 	また、支払	要に伴うリス	クを知る。		の結果どのよう	うな機能障害な	があらわれ、そ	一の機能回		
復にと 回数 1 2 3 4 5	病理学の大きなのでは、たらなのでは、大きなのでは、たらないでは、たらないでは、たりでは、たらないでは、	な支援が	が必要か、 一 丁性病変・	また、支払	要に伴うリス	クを知る。		り結果どのよう	うな機能障害が	があらわれ、そ	一の機能回		

## 【 準備学習・時間外学習 】

定期筆記試験

## 【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社	
シンプル 病理学	笹野公伸 監修	南江堂	

【 単位認定の方法及び基準 (試験やレポート評価基準など) 】

履修規定に準じ、試験の結果を100点満点として60点以上の場合に合格とする